モニタリングサイト1000　環境省 自然環境局 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan　Wetlands INTERNATIONAL

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）底生動物調査

# 摩周湖サイト

## －北海道川上郡弟子屈町－

摩周湖は北海道の東部、釧路から北 70 km に位置する淡水のカルデラ湖で、日本でもっとも透明度の高い湖として知られています。摩周湖は約 7000 年前の火山噴火によって陥没した凹地に水がたまって形成されたもので、日本にある大きな湖沼の中では若い湖です。面積は 19.1 $km^2$、湖岸長 19.8 km、最大水深 212 m（平均水深 143.9 m）、湖面標高 351 m で、流れ込む河川や流れ出す河川はありません。摩周湖周辺は阿寒国立公園に指定され、特別保護地区として立ち入りが制限されています。

摩周湖の最深部付近から摩周岳（カムイヌプリ）を望む
（2015年8月27日 撮影）

摩周湖最深部（水深211 m）から採取した底泥。表面は赤褐色を呈していたが、その下層には層状構造が確認された
（2015年8月27日 撮影）

ウィンチを使って水深205 mの湖底から
エクマン・バージ採泥器を引き上げる調査員
（2015年8月27日 撮影）

## 2015 年度の調査結果概要

調査は 2015 年 8 月 26 日と 27 日に実施しました。調査では、水深 211 m の最深部をはじめ複数の補足地点（205 m、150 m、44 m）を設けて底泥を採取し、そこに含まれる底生動物の種組成と個体数を調べました。今回、水深 211 m の最深部では、線虫がわずかに採集された程度で、ユスリカやイトミミズなどのマクロベントスはまったく確認されませんでした。

補足地点の 3 箇所では、マクロベントスとしては 5 種類の貧毛類（イトミミズやミジンヒメミミズ属の一種など）と 1 種類のユスリカ類が見られたほか、メイオベントスとして、線虫類、クマムシ類、ソコミジンコ類が確認されました。

なお、本調査は国立環境研究所が中心となって実施している摩周湖長期モニタリングの協力・支援を得て実施されました。

【調査者】
西野麻知子（びわこ成蹊スポーツ大学）、大高明史（弘前大学）、
横井謙一・比留間美帆（日本国際湿地保全連合）

水深150 mの湖底から採取した底泥の断面。表面から2 cm程下に砂の様な層が確認された
（2015年8月26日 撮影）

水深150 mの湖底から採集されたイトミミズ
（ミズミミズ科 イトミミズ亜科　*Tubifex tubifex*）

水深44 mから採集されたミジンヒメミミズ属の一種
（ヒメミミズ科　*Cernosvitoviella* sp. ）